

透明な窓ガラスから見えるもの

学校公開でおわかりのように本校の教室の窓はすべて透明ガラスになっています。数年前、学校公開において廊下から自由に教室の授業の様子が見られるようにとの配慮で従来のすりガラスを透明に変えました。ちなみに、私が本校で教頭を務めていたころ(7年前)はまだすりガラスでした。ですから、出入り口のドアが閉まっていれば教室の内部は全く分かりませんでした。

さて、私は『教室のガラスをすりガラスから透明に変えた』ことを参観者が授業の様子を気軽に見られるからという単純な動機だとは思っていません。それだったらもっと早くからやっていたはずです。だって大昔から授業参観は年に何回か必ずあったのですから。

ではそれ以外の理由とは何でしょう。防犯、不審者対策もその一つでしょう。教室内部の様子が廊下から一目で分かることは安全上大切なことです。余談ですが、学校公開はそういう意味では<開かれた学校>と<不審者侵入>の相反する二面性を併せもっているわけです。

一方、すりガラスであった最大の理由は生徒の授業に対する集中力の維持のためだったのではないかと思います。窓の外が見えることは生徒の授業への注意力を明らかに減退させます。特に退屈な授業には効き目があります。その証拠に授業中、私が巡視のために廊下を音をたてないように歩いても、必ず教室の何人かは私に小さく会釈します。(授業中あいさつはしないように言っているのですが…習慣でしょうか)

つまり、生徒の注意力、集中力を多少犠牲にしても、現在の学校はかつての閉ざされた空間から脱皮することが求められているのです。そのため、学校はいつでも開かれていて、校長は地域や保護者の客観的な評価を常に求めながら学校経営にあたらなければならないというのが今日的な学校のスタンスなのです。

窓ガラスの透明化は学校と地域や保護者が一体となって子どもを育てましょうという校長の強い意思表示であり、アピールであり、地域へのメッセージなのです。

街中で校則違反、法令違反の本校生徒を見かけることがあるかも知れません。「学校は指導しているのか！」というお叱りも大変ありがたいのですが、どうぞ『透明なガラスごしで学んでいるわが町の子』を育てるお気持ちで熱くお説教していただけたら大変ありがたいです。